

- ray crater at Henbury, Northern Territory, Australia. USGS Prof. Paper 525-C, C5-C11.
- Milton, D. J., Barlow, B. C., Brett, R., Brown, A. R., Glikson, A. Y., Manwaring, E. A., Moss, F. J., Sedmik, E. C. E., Van Son, J. and Young, G. A. (1972): Gosses Bluff impact structure, Australia, Science, 175, 1199-1207.
- 水谷 仁 (1980): クレーターの科学, 東大出版, p.168.
- Nininger, H. H. and Huss, G. A. M. (1960): The unique meteorite crater at Dalgarranga, Western Australia, Mineral. Mag., 32, 619-639.
- Shoemaker, E. M. and Shoemaker, C. S. (1988): Impact structures of Australia(1987), Lunar and Planetary Science, XIX, 1079-1080.
- Shoemaker, E. M. and Shoemaker, C. S. (1986): Connolly Basin. A probable eroded impact crater in Western Australia, Lunar Planet. Sci., XVII, 797-798.
- Taylor, S. R. (1966): Australites, Henbury impact glass, and subgraywacke—a comparison of the abundance of 51 elements. Geochim. Cosmochim. Acta, 30, 1121-1136.
- Taylor, S. R. (1967): Comparison of meteorite impact glass across the Henbury strewnfield. Geochim. Cosmochim. Acta, 31, 961-968.
- Williams, G. E. (1986): The Acraman impact structure: sources of ejecta in late Precambrian shales, South Australia, Science, 233, 200-203.
- Williams, G. E. (1987): The Acraman structure—Australia's largest impact scar. Search, 18, 143-145.
- Yeates, R. N., Crowe, R. W. R. and Towner, R. R. (1974): The Veevers crater: a possible meteorite feature, BMR Journal of Australian Geol. and Geophys., 1, 77-78.
- 
- KAWAKAMI Shin-ichi (1991): On my visit to Australian impact craters: A report of the Australian Craters Expedition.
- 

<受付: 1990年11月26日>

## 新刊紹介

『高知県温泉水脈推定基礎地質図(20万分の1)』  
 調査・編集者: 甲藤次郎・波田重熙・岡村眞・田代正之・平朝彦・寺戸恒夫。  
 発行: 高知県

23年振りに高知県地質図(20万分の1)が、新しいアイデアによって全面改訂のうえ出版された。この地質図は、表題のとおり温泉調査の基礎資料となるように工夫が凝らされている。

1) 断層やリニアメントが、大構造線、中構造線、クリップ、断層およびリニエーションに5区分され、それぞれが階層別に濃淡図示され、温泉の湯徴探査、すなわち水脈推定に役立つ。

2) 凡例には通し番号が付いているので、各地質区分の相互照合が容易で、配色もアイキャッチング。

このように個性的テーマ図ではあるが、20万分の1地質図として次のように斬新な特徴を持っている。

3) 四万十帯などの地層や変成岩の源岩の時代が、放散虫化石研究などにに基づき、“世”の細分まで示された。

4) 各地層の堆積相が、陸成層、陸棚性堆積体、斜面

海盆堆積体、主として海溝堆積物からなる付加体、海山起源の溶岩や石灰岩・遠洋性堆積物・海溝堆積物などからなる未区分付加体、メラランジュ相の6つに識別された。

5) 地帯構造図索引図において、北から南へ、三波川帯、秩父帯および四万十帯の色別3区分表示。さらに、秩父帯は、秩父亜帯、黒瀬川亜帯および三宝山亜帯、他方、四万十帯は、新莊川亜帯、大正亜帯、室戸半島亜帯および菜生亜帯と明記された。

以下に、感想を少々。

① 水脈推定に役立つ基本的データを系統的に提示しており、目的は十分達成されている。

② 従来の高知県地質図が、鉱山開発のために作成された。本基礎地質図から判断されるように、地質学に対する社会の要請が大きく変わってきたことを痛感する。

③ 付加体などの成因を含めたダイナミックな表現の本地質図が、今後の学問論争を刺激して一層具体的で内容の濃い研究に発展することを期待したい。

<地質部 服部 仁>